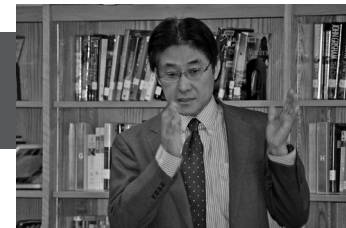


# 帰国生 入試情報

## 帰国生中学・高校入試Q & A

～受験生と保護者の疑問にお答えします。



デトロイトりんご会補習授業校中高等部進路指導担当 丹羽 筆人

帰国生が学校選択をする条件は様々です。「帰国生受け入れ校はどこか。」「受け入れ条件(たとえば海外在住期間や現地校での在籍期間、帰国後の住所など)は何か。」「どのような選考方法(書類審査や入学試験など)なのか。」「入学後に勉強についていけるのかどうか。」「学校生活になじめるのか。」「英語力を保持することができるのか。」などのほかにもまだまだ挙げることができるでしょう。ここでは、帰国後の学校選びでよくある質問にお答えしましょう。

### 帰国生入試が易しいというのは本当ですか？

確かに帰国生入試は特別な選考方法や少ない科目数で受験できる場合もあります。しかし、中学入試や高校入試では帰国生入試といえども負担が決して軽いとは言えません。入試科目は、中学入試では国語と算数の2教科型が多く、理科や社会を加えた4教科型や英語を加えた3教科型もあります。高校入試では英語、数学、国語の3教科型が多く、理科や社会を加えた5教科型もあります。さらに、入試問題も一般入試と同一という学校が目立ちます。つまり、日本の受験生と同様な対策が必要なのです。

一方で、作文と面接のみ、または書類のみで選考する学校もあります。このような入試の多くでは英検合格やTOEFLのスコアなどで英語力を証明する必要があります。その基準は学校によって異なりますが、中学入試では英検2級、高校入試では英検準1級、TOEFL iBTで79以上を要求する学校もあります。TOEFL iBT 79は、アメリカの4年制大学に留学可能な英語力にも匹敵します。

このように帰国生中学入試、高校入試では、一般入試にも対応できる日本語での学力が必要であり、英語力を活かそうとするならば高い実力が必要であり、決して易しいということはありません。

### 中学3年生なのに高校受験ができないことがあるのですか？

帰国生入試は受験資格が複雑です。まず、海外での滞在年数は中学入試・高校入試とも受験時までには1年半から2年以上という学校が目立ちます。そして、高校入

試の場合では、原則として現地の学校にて9年間の学校教育課程を修了していることを条件にしています。ここで、日本と米国との学校暦と入学基準との違いによって少々問題が生じます。日本の学校では中学3年生の年齢なのに、高校入学時に現地校の9年生の途中であるために高校の入学資格がないというケースです。

この場合、高校入学資格を得るためにはいくつかの方法が考えられます。①現地校の学年を飛び級する。②全日制日本人学校の中3に編入する。③帰国して公立中学の中3に編入する。④帰国して中高一貫校の3年生に編入する。⑤9年生を修了してから帰国し高1に編入する。などです。①は現地校での実力が必要ですし、②はニューヨークやシカゴ、ロサンゼルスなど限られた地域のみで可能です。④⑤では入学したい学校の編入試験があるとは限りません。こう考えると③の方法が現実的です。公立中学は住民票があればいつでも編入可能です。ただし、3学期に編入するのでは受け入れ校にご迷惑もかかりますし、入試までに日本語力を向上させるためにも夏休み明けには編入することをお勧めします。

一方で、入学時に日本の高1と同年齢の15歳に達していれば入学資格があるとする高校もありますので、受験を希望する高校に事前に確認してから対応策を考えることも大切です。

### 海外で身につけた英語力を保持するためにはどうしたらよいのですか？

海外で身につけた英語力を保持したいというのは、帰国後に求めることの一つです。もちろん帰国時の英語力には個人差がありますが、多くの児童生徒が、帰国後に入学する学校の児童生徒より高い英語力があるでしょう。日本では今年度から小学校高学年で英語が必修化されましたし、多くの中学や高校ではネイティブスピーカーの先生による授業を取り入れたりもしています。しかし、それでも中学校や高校の英語の授業は文部科学省の学習指導要領に定められた内容で行われます。したがって、学校での英語の授業が簡単すぎるというような話はよく耳にします。

帰国生受け入れ校の中には、このような問題を解決するために、国際学級という帰国生だけのクラスを設けたり、英語の授業のみ別クラスで行ったりしている(「取り出



し授業)学校もあります。また、放課後に英語の特別授業を行っている学校もあり、英語力の保持・向上が期待できます。

一方で語学学校を活用する方法もあります。ただし、子ども向けのクラスは易しすぎる場合が多いので、大学生や社会人を対象としたクラスで学ぶか、個別指導を受講したり家庭教師を利用したりすることが必要になります。

いずれにしても帰国後は、英語に触れる時間が極端に減りますし、日本語での学習がより重要になりますので、英語力の保持・向上に関してはある程度妥協せざるを得ない場合もあるでしょう。

### 帰国後に授業についていけるかどうか不安です。

帰国生受け入れ校では、帰国生に対する配慮として、英語力を重視する入試を行ったり、入試科目から社会や理科、国語の古典分野などを外したりしています。現地校通学の場合は日本語での学習時間が圧倒的に少ないので、このような仕組みはありがたいことです。ただし、英語力を重視する学校では英検準1級やTOEFL iBTで79以上のスコアを要求するとか、入試科目は少なくとも入試問題は国内生入試と同一というように、決してハードルは低くはありませんから、受験対策にはかなりの時間と努力を要するでしょう。また、入試では必要な科目も他の生徒と同様に履修しなければなりません。その際の言語は日本語です。したがって、受験対策以外の学習をおろそかにしていると、入学後大変苦労することになります。

そのための対策として、日本の教科書で国語、数学(算数)、理科、社会の学習を万遍なく行うことが必要です。つまり、補習校での学習が大切なのです。補習校でも学べない科目については、教科書にて自学自習するだけでもよいでしょう。学習塾での学習は問題集が中心ですが、教科書に目を通すことも大切です。教科書には各学年に応じた知識や視点、思考力を養うための基礎事項が盛り込まれており、帰国後の学校の授業に影響するからです。

帰国時の日本語力や学力はそれぞれ異なっています。どうしても授業についていけない場合には、授業の補習や日本語力向上のためのサポートを行う学校はありがたい存在です。帰国生受け入れ校には、入試では配慮するが、入学後は全く国内生と同じ扱いという学校も少なくはありません。無理なく日本の学校に適應するために、入学後のサポートのある学校を選択することも学校選びのポイントの一つです。

### 日本の高校卒業後の進学について教えてください。

帰国後の学校選びで気になる点の一つが、高校卒業後の大学進学でしょう。高い進学実績のある高校に入学すれば、卒業後に名門大学に入学できる可能性もあるかもしれません。ただし、帰国生の場合は、そう簡単に日本語での学力が向上しな

いことも考えられます。ここではそんな場合に考えられる方法をご紹介します。

帰国生大学入試は、海外の高校を卒業しているか、卒業していなくても海外の高校に何年かは在籍していないと受験できないと多くの方がお考えでしょう。しかし、日本の高校に編入しても受験資格のある大学がありますし、場合によっては、海外では小中学校に在籍したのみで、高校は3年間日本という場合でも、帰国生入試の受験資格のある大学があるのです。青山学院大、上智大、明治大などが実施している海外就学経験者入試がそれに該当します。一般入試よりは入試科目の負担も少なく、受験倍率も低いので狙い目とも言えるでしょう。また、書類選考や面接を重視して選考するAO入試(アドミッション・オフィス入試)を実施している大学も増加傾向にあります。負担も軽く、海外での経験を活かせる入試です。

大学付属や系列の中高一貫校や高校には、大学に内部進学できるシステムもあります。校内選考に合格しないと進学できない学校もありますが、卒業生の多くが進学している学校が目立ちます。また、海外の大学と提携し、留学可能な制度を持つ学校もあります。

一方、日本の大学でも早稲田大国際教養学部や上智大国際教養学部のように英語だけで授業の受けられる大学もあります。このような大学の入試も帰国生にとって有利と言えます。

このように将来の進路として、いろいろな大学に目を向けることもお勧めします。

帰国生後に満足できる学校を選ぶためには早めに学校や入試の情報を収集し、受験校に合わせた対策を立てることが必要です。まずは教育・受験関係のウェブサイトや受験情報誌、さらに各学校のウェブサイトやパンフレットも参照するとよいでしょう。



### 執筆者のプロフィール

河合塾で十数年間にわたり、大学入試データ分析、大学情報の収集・提供、大学入試情報誌「栄冠めざして」などの編集に携わるとともに、大学受験科クラス担任として多くの塾生を大学合格に導いた。また、現役高校生や保護者対象の進学講演も多数行った。一方、米国・英国大学進学や海外サマーセミナーなどの国際的企画も担当。

1999年に米国移住後は、CA、NJ、NY、MI州の補習校・学習塾講師を務めた。2006年に「米日教育交流協議会(UJEEC)」を設立し、日本での日本語・日本文化体験学習プログラム「サマー・キャンプ in ぎふ」など、国際的な交流活動を実践。さらに、河合塾海外帰国生コース北米事務所アドバイザーとして帰国生大学入試情報提供と進学相談も担当し、北米各地での進学講演も行っている。また、文京学院大学女子高等学校・中学校北米事務所アドバイザー、デトロイトりんご会補習授業校講師も務めている。

